

# 戦後の施設内分娩の急増期に助産師が行った 妊産褥婦への保健指導

Health guidance for pregnancy and postpartum women given by midwives  
after the Showa postwar change.

中本 朋子<sup>1)</sup>

キーワード：戦後 施設分娩 助産師 保健指導

## I 序論

我が国の助産関係の大きな転換に、戦後の施設内分娩の急増がある。「敗戦後、GHQによる助産制度の改革は、医師主導による施設分娩を指向し、厚生省もこの方針を継承した」(大林, 1989, pp286)とある。山口県においても、昭和26(1951)年の自宅分娩の割合は94%、病院・診療所分娩5%に対し、昭和50(1975)年には自宅分娩0.4%、病院・診療所分娩96%とその比率は大きく逆転している。施設分娩が急増する中、施設内ではそれに応じた妊産褥婦を対象とした保健指導のシステムはなかった。

筆者らが平成5(1993)年に行った山口県の開業助産婦への聴き取りでは、昭和23(1948)年、保健婦助産婦看護婦法の助産婦の定義に「保健指導」が示される以前から、母から子、子から孫へと世代を超えた保健指導、分娩介助、育児支援を行い「日常生活を整えることによる正常性の維持」と「女性が母親になるプロセス」が支援されていた。

敗戦後、社会環境が大きく変化し、施設内分娩が急増する激務の中、勤務助産婦は、どのように「保健指導」を体制化したのか。聴き取りから得た情報と既存資料から考察した。

## II 研究方法

### 1. 方法

- 1) 山口県で昭和40年代から平成10年代に活動した勤務助産師への聴き取りおよび当該助産師より貰い受けた既存資料より、自宅分娩から施設分娩への転換期における妊産褥婦保健指導の体制づくりに関する史実を明らかにした。
- 2) 1)の山口県の史実を助産の動向に関する文献と照合し、助産師の職責である「保健指導」を考察した。

### 2. 聴き取りの対象者

山口県防府市在住 氏家任代助産師(75歳)

### 3. 調査期間

2018年12月～2020年1月

### 4. 倫理的配慮

聴取した情報を記述し公開すること、既存資料を撮影し公開すること、氏名および個人情報の一部を公開することの承諾を本人より口頭で受けた。記述

1) 山口県立大学別科助産専攻

は、聴き取りの取り違えがないか本人に確認の上、公開した。利益相反はない。

## 5. 用語

「助産婦」「助産師」の記述は、「保健婦助産婦看護婦法の一部を改正する法律」による平成14年3月の名称改正の前後で使い分けた。引用、会話の記述は、使用された言葉のまま「産婆」「助産婦」「助産師」を用いた。

## Ⅲ 結果

### 1. 氏家（旧姓河口）任代（うじいえまきよ）

#### 助産師の経歴

昭和19（1944）年7月15日、山口県佐波郡（現在の山口市徳地）に生まれる。昭和38（1963）年に山口赤十字高等看護学院に入学。昭和41（1966）年に卒業後、山口赤十字社からの委託学生として日本赤十字社助産婦学校（東京）に進学。修業期間は1年。昭和42（1967）年の卒業とともに山口赤十字病院に入職。昭和46（1971）年、山口県立衛生看護学院看護婦科に保健婦助産婦科が新設されることから、山口県立高等看護学院の教員であった山口赤十字高等看護学院の先輩に招かれて山口県立中央病院（現山口県立総合医療センター）に入職。

氏家助産師が入職した当時、山口県立中央病院の産科と婦人科は、混合診療であり、妊産婦への保健指導は無かった。その後、「婦人科」と「産科」を区分けし、全妊婦は、医師による健診を受けた後、助産師による保健指導を受ける体制づくりをされた。

平成14（2002）年57歳で山口県立総合医療センターを退職後、同年、「女性の生涯にわたる健康支援」を施設理念とする助産所を開設、令和2（2020）年現在に至る。

筆者は、平成30（2018）年12月、氏家助産師より『昭和41年日本赤十字社助産婦学校在学中の実習ノート』を貰い受けた。

### 2. 昭和30年代の妊産婦保健指導

氏家助産師が所属している日本赤十字社内助産婦学校内同窓会松契会から出版されている『松契』には、昭和30年代に保健指導部勤務であった青木康子氏の記述がある。

「昭和30年1月の発足当時は、常時の人員は1名、

1人は勤務を退けた人の中から手伝という様な形でいたしていましたが、何か事故があれば開店休業という誠に頼りないものでしたが、翌31年4月に人員も2人になり、どうやら形をなして今日に至りました。そして仕事も年毎にふえ、早晩2人では間に合はなくなるのではないかという、嬉しい悲鳴が出そうな状態になってきました。仕事の内容は発足当時の午前中は外来の妊婦指導、午後は入院中の母親への指導、家族計画指導、並びに母親学級という形は変わりませんが、現在は之に調乳指導と未熟児指導がふえ、統計的に見ても入院数の増加と共に、妊婦指導や退院指導、沐浴指導も著しく増加し、指導総数も本年10月末現在で既に30年度の2倍以上になっています。」

施設分娩の急増に伴い、助産婦が保健指導に力を注いでいった状況が記載されている。

また、『松契95年の歩み』には「1949年（昭和24）2月連合司令部公衆衛生福祉部E. マチソン女子（以下マチソン女史）は、東京在住の助産婦約10人を集め、日本赤十字社中央病院で母親学級のモデルクラスを開催している。さらにこのクラスに参加した助産婦がそれぞれの職場で講師となり、母親学級を開催することを奨励した。日本看護協会、助産婦部会、厚生省母子衛生課などは、助産婦の再教育に力を注いでいたが、さらにマチソン女史はこれらの研修の講師として全国を巡講、母親学級の必要性和推進を助産婦に呼びかけたとされる。その後、長きにわたりこの内容を源流とした母親学級が日本各地で運営された。」とある。母親への指導に先立ち、助産師への集団指導があったことが分かる。

### 3. 昭和41年 氏家助産師の助産実習ノート

氏家助産師は、全国的に妊産婦への保健指導が強化される中、先駆的な取り組みがなされていた日本赤十字社産院で学び、助産婦資格取得後は、山口県で保健指導部門を立ち上げる期待を受けていた。在学中は、立ち上げ準備のための情報収集を意識的に行ったとのことである。氏家助産師の実習ノート（写真1）には、当時の妊産褥婦を対象にした保健指導の内容（表1）が記してあった。



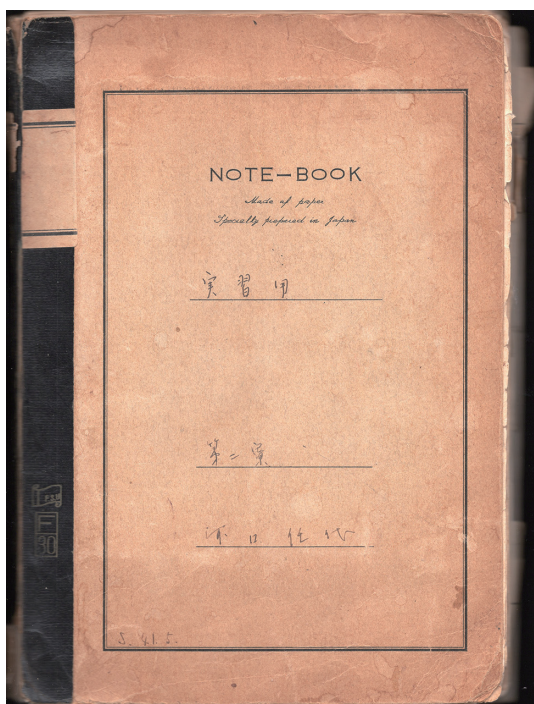


写真1. 実習ノート

page1 初めて御診察を受ける方へ	page 22 助産録
2 予診に備えて	23 日本赤十字社 助産分病歴
3 妊婦診察のしおり	24 温度表
4 母親学級のすゝめ	25 分娩経過
5 無痛分娩へのおすゝめ	26 特殊検査用紙
6 妊娠中毒症の予防について	27 動物試験用紙
7 入院の時期について	28 血液理化学検査紙
8 持参するもの	29 血液検査用紙
9 入院時持ってくるもの	30 証明書
10 赤ちゃんの衣類	31 同意書
11 御入院中のお母様へ	32 不妊検査用紙
12 乳首の手当て	33 母親学級修了書
13 未熟児室へ入院している 赤ちゃんの家族の皆様へ	34 外来使用語①
14 赤ちゃんの沐浴	35 外来使用語②
15 調乳	36 借用書
16 マルツエキスの使用法	37 看護日誌
17 未熟児退院後の注意	38 カーデックス (1)
18 退院後のお母様方へ	39 カーデックス (2)
19 家族計画相談の葉	40 栄養消費表
20 連絡票	41 食餌表

表1. 実習ノート 目次

以下は、実習ノートの目次1～19に沿った当時の保健指導の概要である。

### 1 初めて御診察を受ける方へ

(母子健康手帳大リーフレット)

①予診室 ②手洗い所、検査室 ③初診室 ⑤初診お話室 ⑥レントゲン室 ⑦産婦人科受付 ⑧保健指導部 ⑨婦人科 ⑩社会事業部(夜間受付) ⑪体重測定室 ⑫精算書(④は欠番)が、わかりやすく図示してある。

### 2 予診に備えて

現在の問診票に相当する用紙である。現在と比較した場合の特記事項として、診察理由の該当箇所を選ぶ欄に「赤ちゃんが動く」がある。また、既往妊娠欄が8回分あり、夫の健康・性病の有無、血液型検査・貧血検査の希望の有無を記載する欄がある。

### 3 妊婦診察のしおり

(母子健康手帳大の折り込み式のカード)

内容は、①施設利用上の注意 ②妊娠月数別母児の変化と生活上の注意点 ③体重管理のためのグラフ ④母親学級の紹介の4項目とママと赤ちゃん、お子さま向けの市販の栄養剤の広告があった。施設利用上の注意には、今日の診察の結果、次回からの診察について、次回からの診察順序、診察を受ける時の注意、母子健康手帳、着帯、母親学級、精神予防性無痛分娩 入院室の申し込み、社会保険事業部、健康保険について、受付時間が記載されており、初診から次回受診への継続が説明されている。

### 4 母親学級のすゝめ

母親学級の受講を勧めるリーフレットには、「妊娠から産褥までの生理や攝生を、正しく理解するようにし、また、上手な赤ちゃんの育て方について学び、近代的なよりよいママさんとなるために、勉強しようではありませんか。」との記載がある。

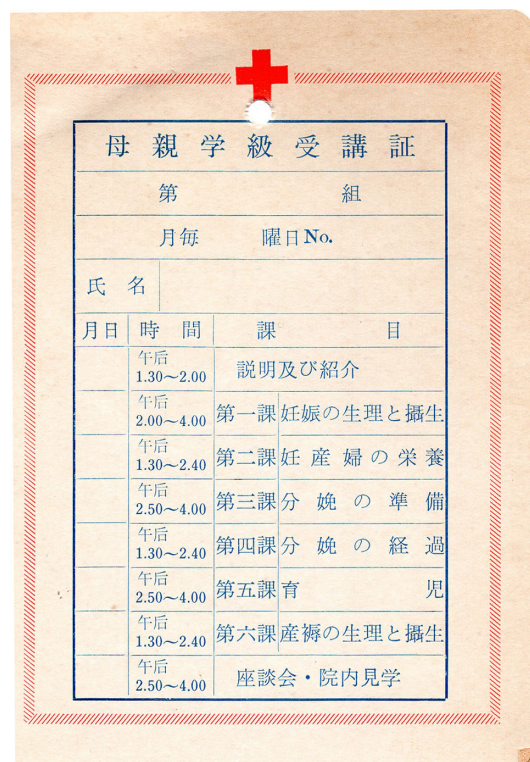


写真2. 母親学級受講票

## 5 無痛分娩へのおすゝめ

助産婦が行う「精神予防無痛分娩」のための準備教育を紹介している。文献には、ロシアの「精神予防無痛分娩」は社会主義国である中国に渡ったが、1953年それを日赤の菅井正朝が学んできて「精神予防無痛分娩」として日本でも広く知られるようになった（松本, 1993）とあり、分娩準備教育の海外からの窓口は日赤であった。

## 6 妊娠中毒症の予防について

記述には、「今日の診察結果に『体重増加が著しい』『浮腫（むくみ）がある』『尿にたんぱくが出ている』『血圧が高い』ということがわかりましたので妊娠中毒症にならないように注意しましょう。」とあり、早期発見、早期対応のためのリーフレットである。

## 7 入院の時期について

陣痛、破水、異常出血時のタイミングを説明するリーフレットで、陣痛間欠時間は、対象に応じて書き込めるように空欄である。

## 8 持参するもの

### 9 入院時持ってくるもの

母親用品、赤ちゃん用品が記載されたリーフレットであり、妊娠貧血を予防する必要性と鉄剤（商品名）の広告の記載がある。

### 10 赤ちゃんの衣類

「着せ方の標準」には、下着・胴着・上着など、季節ごとの布地素材の適否、枚数、使用上の注意が丁寧に説明されている。「衿なしで縫い目の少ないもの」「赤ちゃんに使用するものは余り強くない石けんと微温湯でよく洗い充分すすぐこと。できればアイロンをかけたほうがよい。…」など具体的な説明である。また、「赤ちゃんの衣類は出来るだけ自分で作るように心がけましょう。そんな時、貴方は赤ちゃんとお話をしているのです。」とあり、妊娠中からの「母性を育む働きかけ」が記載されている。

### 11 御入院中のお母様へ

（母子健康手帳サイズの24ページ小冊子）

1日目～7日目まで、病院の日課にそって、日々の母児の変化に合わせ、話かけるような語調で、母児の注意事項、産後の家族計画が記載されている。

### 12 乳首の手当て（リーフレット）

妊娠中から行う乳首の手当てが図解されている。

### 13 未熟児室へ入院している赤ちゃんの家族の皆さまへ（リーフレット）

下記①～⑩が記載の概要である。

- ①入院時の注意…急変の可能性と、急変に備えた連絡場所
- ②面会時間…赤ちゃんの安静のためにも面会時間は厳守すること、子供連れの面会の禁止、風邪をひいた人の面会禁止
- ③電話の問い合わせについて
- ④母乳について…未熟児にとっての母乳の重要性、直接吸てつがでできるまでの乳腺への刺激の必要性（他の哺乳力の強い赤ちゃんに吸って貰って…と当時の方法の記載あり）
- ⑤授乳練習について…赤ちゃんの体重が2300g前後になったら通院で練習を行う
- ⑥指導について…沐浴指導、退院指導、未熟児指導の予定と携行品
- ⑦入院料金支払いについて…支払方法
- ⑧退院時の注意…医師の診断後に行われる退院日の調整、退院時の衣類など
- ⑨出生通知票について…保健所への届け出の必要性和保健師の訪問の説明
- ⑩出生届…生後2週間以内に出生地の市町村長役場に届け出ること、米穀通帳に児の名前を記載すること

## 14 赤ちゃんの沐浴

必要物品、順序、注意点が列記されている。

## 15 調乳

下記①～④が記載の概要である。

- ①必要な物品…哺乳瓶2～3本、乳首3～4個、乳首を入れる容器（蓋つきのもの）、ミルク沸し、軽量カップ（哺乳瓶で代用してもよい）、泡立て器（または箸4～5本）びんブラッシ、さい箸、蒸し器または鍋
- ②材料…粉乳 糖分（滋養糖、ネオメール、ビタメール、白砂糖等）
- ③方法…一度沸騰させた湯を必要量はかってミルク沸かしに入れ、摂氏50～60度位にさましてから定量の糖分及び粉乳を加え、よく混ぜて溶く。（一部を抜粋）
- ④注意…ミルクの濃度については、毎月の健康診断の時に、必ず医師または保健婦、助産婦に相談すること。（一部を抜粋）

## 16 マルツエキスの使用方法

便秘の児に与えるための希釈方法を示したリーフレットである。



17 未熟児退院後の注意

見開き4ページの母子健康手帳サイズのリーフレットである。

- ①栄養について
- ②沐浴
- ③感染の予防
- ④室温
- ⑤寝床
- ⑥衣服の着せ方
- ⑦児に起こりがちなこと
- ⑧貴方の赤ちゃんについて特に注意して欲しいこと
- ⑨健康診断について
- ⑩未熟児を育てる心構え

18 退院後のお母様へ（実習ノートへの記載なし）

19 家族計画相談の葉（はがき大リーフレット）

財団法人主婦会館のリーフレットが紹介されている。「…いくら子供の数や間隔を適当にしても、母親の心や体に深刻な影響を与え、家庭を台無しにするおそれすらある人工妊娠中絶術を繰り返すというようなことでは、幸福もなにもあったものではないでしょう。健康で明るい家族計画は、何よりもまず正しい受胎調節を身につけ、それを忠実に実行するところからはじめなければならないものなのです。そして、そのためには、専門家について指導を受けることから出発するにこしたことはありません。急がば廻われという言葉もありますし。そういう皆様方のご希望に応じられるようにと、主婦会館には家族計画相談室が左記の要領で開かれておりますので、充分ご利用くださいますようお願いいたします。」と記載がある。

現在の指導項目と大きな差はないが、指導項目ごとにリーフレット、パンフレット形式で、読めばわかるように平易に丁寧に説明されている。助産婦は、多忙な業務の中にも妊婦の健康を守り、母性を育もうとした表現である。

氏家助産師は、実習を通しこれらをモデルにしたと言われた。

4. 山口県立中央病院での妊産婦保健指導の始まり

氏家助産師は「お産が多く、妊婦さんも多かったけれど、一人一人の保健指導を責任もってするために保健指導カードを作った。妊娠中の保健指導をきちんとしておかなければ、スムーズに分娩は進まない。産婦、助産婦、医師が一体となって安全なお産を目指した。その人その人に応じた入院の時期の説

明も大事で、自宅で生まれたり、救急室で生まれたりしたこともあったから…」と回想された。

写真3, 4は、当時の保健指導カードである。担当する助産師が複数でも、保健指導の継続性が大切にされており、申し送り事項が記入できるようになっている。

保健指導カード

妊娠月数	指導内容	注意事項
初診	① 予定日について ② 経歴及び検査について ③ 妊娠に対する一般的な注意 ④ 分娩場所 ⑤ 産後経過観察	
1月 日		
妊娠3ヶ月	① 妊娠週と母子健康手帳 ② つわりについて ③ 胎動予防 ④ 産後予防 ⑤ 予防注射 ⑥ 入院予約費、入院案内説明	
月 日		
妊娠4ヶ月	① 妊娠中の栄養 ② 産後の準備 ③ 外陰部の手当て ④ 母子健康手帳活用 ⑤ 次回産科受診 ⑥ 妊婦教室受講希望	有・無
月 日		
妊娠5ヶ月	① 胎動 ② 胎動について (月 日) ③ 妊娠中の衣服・はき物 ④ 口腔衛生と産科受診 ⑤ 乳房の形	1子 2子 ヶ月 母乳 右 左
月 日		
妊娠6ヶ月	① 乳房の手当て ② 新生児の必要物品 ③ 妊娠中の胎動 ④ 産後 ⑤ 産後の栄養 ⑥ 胎動・産後の予防	乳房の手当て 実施中 否
月 日		
妊娠7ヶ月	① 分娩場所の確認 ② 分娩及び産褥期の必要物品セット ③ 妊娠中毒症予防 ④ 定期検診	入・不 乳房の手当て 実施中 否
月 日		
妊娠8ヶ月	① 分娩経過 ② 早産予防 ③ 入院予約費記入について ④ 分娩に対する心構え(物品、理解度、母子 etc)	済・未記入 乳房の手当て 実施中 否
月 日		
妊娠9ヶ月	① 産前産後の衛生 ② 異常の予防と早期発見 ③ 分娩生活 ④ 分娩 ⑤ 分娩後経過観察 ⑥ 分娩後経過観察 (済・否) ⑦ 分娩時呼吸法	呼吸法 乳房の手当て 実施中 否 実施中 否
月 日		
月 日		実施中 否 実施中 否

写真3. 保健指導カード（表）

保健指導カード

妊娠月数	指導内容	注意事項
初診	① 予定日について ② 経歴及び検査について ③ 妊娠に対する一般的な注意 ④ 分娩場所 ⑤ 産後経過観察	
1月 日		
妊娠3ヶ月	① 妊娠週と母子健康手帳 ② つわりについて ③ 胎動予防 ④ 産後予防 ⑤ 予防注射 ⑥ 入院案内説明	
月 日		
妊娠4ヶ月	① 妊娠中の栄養 ② 産後の準備 ③ 外陰部の手当て ④ 母子健康手帳活用 ⑤ 次回産科受診 ⑥ 妊婦教室受講希望	有・無
月 日		
妊娠5ヶ月	① 胎動 ② 胎動について (月 日) ③ 妊娠中の衣服・はき物 ④ 口腔衛生と産科受診 ⑤ 乳房の形	1子 2子 ヶ月 母乳 右 左
月 日		
妊娠6ヶ月	① 乳房の手当て ② 新生児の必要物品 ③ 妊娠中の胎動 ④ 産後 ⑤ 産後の栄養 ⑥ 胎動・産後の予防	乳房の手当て 実施中 否
月 日		
妊娠7ヶ月	① 分娩場所の確認 ② 分娩及び産褥期の必要物品セット ③ 妊娠中毒症予防 ④ 定期検診	入・不 乳房の手当て 実施中 否
月 日		
妊娠8ヶ月	① 分娩経過 ② 早産予防 ③ 入院予約費記入について ④ 分娩に対する心構え(物品、理解度、母子 etc)	済・未記入 乳房の手当て 実施中 否
月 日		
妊娠9ヶ月	① 産前産後の衛生 ② 異常の予防と早期発見 ③ 分娩生活 ④ 分娩 ⑤ 分娩後経過観察 ⑥ 分娩後経過観察 (済・否) ⑦ 分娩時呼吸法	呼吸法 乳房の手当て 実施中 否 実施中 否
月 日		
月 日		実施中 否 実施中 否

写真4. 保健指導カード（裏）

#### IV 考察

氏家助産師が山口県立中央病院に入職した昭和46年の山口県の病院・診療所の出生数は、23,430である。平成29年の山口県の出生数9,455に対し、約2.5倍である。「年間分娩数は多く、三交代の一勤務帯で3～5件の分娩があった。山口県立中央病院に外来保健指導がなかった時は、お産の入院時に『初めまして』という人がほとんどだった。助産師が非常に不足しており、新人も入職後1ヶ月目には、准看護師とペアで夜勤を行い、新人でもリーダー業務をした。山口県立衛生看護学院から保助科に進学する者、県外の助産師養成所に進学する者に対して、卒後は県立中央病院への就職を勧められていた。」と当時を知る助産師より聞いたことがある。勤務助産婦が著しく不足していたことが推察される。我が国の開業助産婦が「日常生活の延長線上で、口承で行った母親への支援」が意図的にかつ集団を対象に行われるようになった背景には、マンパワー不足がある。

大林（1989, pp255）は、組織の中での助産婦業務の問題として「…・助産婦であり、看護婦であるため、手術の手伝い、外来、それに産婦が加わり、夜も起こされるなど、産科は最も忙しい。・保健指導、一貫指導ができない病院のシステム・病院経営者、管理者たちに、助産婦の業務の本質に対する理解がない。・勤務助産婦の絶対的不足…」を列挙し、保助看法・医療法などの制定時には予測もつかなかった施設分娩の急増と、助産婦の業務のあり方の変化に対応できない法や制度や病院システムのおくれを述べている。

筆者は、開業助産婦から技とケアを学ぶため、平成5年から平成8年にかけて山口県内の開業助産婦9名の聴き取りを行った。自宅分娩が主流の時代の開業助産婦は、自らの居住地を中心とする地域において「継続的な妊産婦と家族への健康教育」「分娩介助」「個別的な世代を超えた子育て支援」を行っていた。従来の助産婦の活動、助産の本質を理解する関係者にとって、妊産婦に対する一貫した保健指導の体制づくりは喫緊の課題であったと考えられる。

既存資料によると、昭和46（1971）年には、「山口県公衆衛生看護学院」（保健婦科）と「山口県立衛生高等看護学院」とを統合、保健婦助産婦の養成課程である保健婦助産婦科が新設されている。山口県立中央病院の妊産婦保健指導の体制づくりや保

健師助産師養成には山口県出身者で、日本赤十字社（本社）の他、他県で学んだ助産師が招聘されていた。当時の対策として、実習病院の整備と人材育成のための保健婦助産婦科での教育が同時に行われていた。人材育成と実習環境の整備が並行して行われたことは、非常に画期的である。

施設分娩の急増は、産婦と助産師との信頼関係に基づくケアの継続性を欠き、個別な母親の成長への見守りを不可能にし、早期新生児期の育児を「母親が家庭で試行錯誤しながら主体的に行う育児」から「施設内で医療従事者にやってもらう育児」に変化させたと考える。しかし、氏家助産師の実習ノート、当時の保健指導システムの始動を知ることで、当時の助産師学生が、先駆的な取り組みをしている環境で教育投資を受け、自らの役割を認識し保健指導を普及させたか、ケアの継続性を重視したかを推察できる。

2017年8月1日、厚生労働省は「子育て世代包括支援センター業務ガイドライン」を公表した。多職種連携による「地域における継続的な支援」への回帰である。敗戦後、外力によって起きた助産の転換に、助産婦は助産婦としての職責を果たすために保健指導を普及させた。現在の転換期に、助産師の役割を再考することは、非常に重要と考える。

#### V おわりに

史実を知る人物から聴き取り、限られた資料からの考察であった。現場の種々事には背景があることを実感した。わが国の歴史ある助産師職が培った保健指導を残したい。

#### 謝辞

自らの生涯にわたる助産師活動を通じて、助産師職の役割をご教示くださった氏家任代助産師へ心よりお礼を申し上げます。

〈文献〉

- 大林道子：助産師の戦後、東京、勁草書房、1989.
- 山口県看護協会助産婦職能委員会編：山口県のお産の歴史—助産婦の昔話—、1986.
- 日本赤十字社内助産婦学校内同窓会誌 松契 第二十七号（昭和34年12月）.
- 日本赤十字社内助産婦学校内同窓会誌 松契 95年の歩み 23、2018.
- 松本清一監修：改訂版妊産婦体操の理論と実際、22、社団法人全国保健センター連合会、1993.
- 山口県平成29年保健統計年報 第9表出生数、体重・性・多胎児・月別（2019.12.20 検索）  
<https://www.pref.yamaguchi.lg.jp/cms/a13200/hokentoukei/h29toukei/shussho.html>
- 山口県立大学：文部科学省地（知）の拠点 DVD 山口県の開業産婆・開業助産婦のあゆみ、2015.
- 山口県立衛生看護学院創立50周年記念誌、山口県立衛生看護学院同窓会、2005.
- 山口赤十字看護専門学校閉校記念誌1920-2005、山口赤十字看護専門学校、2005.
- 厚生労働省・子育て世代包括支援センター業務ガイドライン（2018.10.06 アクセス）  
<https://www.mhlw.go.jp/stf/houdou/0000172988.html>